

平成 27 年度 総会・特別講演会報告

■ 総 会

議事次第

1. 議事

- 第 1 号議案 平成 26 年度 決算(案)
平成 27 年度 予算(案)
- 第 2 号議案 平成 27 年間スケジュール
(案)
- 第 3 号議案 役員改選について
- 第 4 号議案 懇談会HPの活用について

2. 報告事項

3. その他

【総会風景】



有澤会長挨拶

敦賀気比高校や石川の星陵高校の影響で北陸は盛り上がっている、そこに来て北陸新幹線の開通でさらに盛り上がりを見せている。

本題の方では理事の方々が、事業委員、業務委員、総務委員、女性・青年委員の4つの部会に入り、良い意味での組織改革が威力を發揮している。

のち、各議案についての質疑が行われた。

■ 総会特別講演会

1. 「中国の大学受験狂騒曲」

金沢大学外国語教育研究センター 準教授 杉村安幾子氏の講演がありました。

●要 旨

毎年 6 月 7・8 日は中国の統一試験の日です。

中国の大学に入学するには、基本的にはこの統一試験の一回勝負です。日本の平成 27 年度のセンター試験受験者は 53 万人強、一方中国の昨年の統一試験受験者は 939 万人でした。この 1 千万人にも及ばんとする中国

の高校生たちは、統一試験での高得点を目指して、日々必死に勉強しています。彼らの激闘の日々を追うとともに、替え玉入試、少数民族への成りすまし、「そこまでやるか？」の、びっくりハイテク・カンニンググッズなど、様々な不正行為についてもご紹介します。

【杉村安幾子氏の講演】



1) 中国人の教育観

- ・中国人の伝統的な学問信仰・出世信仰
- ・「望子成龍」「万般皆下品、惟有讀書高」
- ・文化大革命期の教育崩壊が招いた学問への飢え
- ・大学進学なくして出世はあり得ない

2) 現在の学校体系

- ・1993 年 3 月「中華人民共和國教育法」制定
- ・九年制義務教育=小学校「六年制」+初級中学「三年制」
- ・高等教育機関=大学(総合大学)と学院(単科大学)2013 年 時点 2,491 校、学生数 2,456 万人

3) 教育の需要

- ・学歴間の所得格差→激しい貧富の差
- ・大学進学=人生で成功するためのパスポート (現在、未曾有の就職難)

4) 大学進学率

- ・2012 年 30%前後である

5) 戦いは生まれた時から始まっている

- ・優秀な生徒集めに心死の高校
- ・受験勉強浸けの高校生
- ・2009 年全人代「過度な勉強や宿題からの解放」
- ・後を絶たない自殺・事件

6) 決選は 6 月「すべては統一試験のため」

- ・6 月 7・8 日は「全国高等院校招生統一考試」

- ・一千万人にも及ぶ受験性
- ・国家総動員・国を挙げて実施する統一試験
- ・様々な受験生と「状元」

7) 受験産業と様々な不正

- ・受験業界は一大産業
- ・出版・学習塾・家庭教師・ホテル
- ・替え玉・カンニンググッズ

8) 大学ランキング

- ・2015年 1 北京大学 2. 清華大学

9) まとめ

- ・多様化の進む入試
- ・金持ち・優秀な生徒は欧米へ
- ・受験教育から資質教育

2. 「白山の噴火を考える」

金沢大学理工研究域自然システム学系

教授 平松 良浩氏の講演がありました。

●要旨

2014年の御嶽山噴火と比較して地殻変動が少なく、噴火はないだろう。

- ・震源の深さの変化
- ・火山性微動
- ・低周波地震
- ・山体の膨張・傾斜変化

などが噴火の前兆現象であり、これらが整わないと噴火にはならない。

1) 噴火予知の五要素

いつ	開始時期
どこで	場所
どれくらい	噴火規模
どんな	噴火様式
いつまで	終了時期

2) 白山火山の成り立ち

30～40 万年前 : 加賀室火山

10～14 万年前 : 古白山火山の形成

3～4 万年前 : 新白山火山の形成

現在の山頂部を中心に活動

最近1万年で約20層のテフラがある。南竜火山灰の約2000～2300年前出来たもので
白～灰白色の火山灰 → 水蒸気噴火
褐色の火山灰 → マグマ噴火である。

白山には比較的最近の火山活動の痕跡が多数確認できる。古文書に記されている白山

火山の活動は100～150年の断続的な活動で、現在300年の休止状況にある。

3) 白山の地震活動

白山直下に地震が集中、震源の深さが浅い

①群発的地震活動

低周波地震の発生(地殻-マントル境界付近)

②火山性微動は未確認

以上のことから防災基本計画を建てる必要がある。

【平松良浩氏の講演】



4) 防災基本計画

①地元と火山防災協議会を設置・開催

②噴火警戒レベルを地元と共同検討

③具体的な避難計画を地元と計画

関係各部署・地元が互いに顔の見える関係にする必要がある。

5) 今後の白山噴火予知に関して

①地殻変動を測定するため傾斜計やGPS等を設置する。

②地震計の設置

③電磁気や火山ガスの測定をする必要がある。

6) 防災面での対応

①火山防災マップの作成

②入山規制・避難計画

③情報伝達・活用(グレー情報)

④突破的な噴火への対策として既存施設の噴火対策・シェルターの設置・ヘルメットの着用等

白山噴火・地震活動は過去の活動の範囲内で地震活動は静穏化しており、また、火山性微動・低周波地震が未発生であり、噴火の兆候は認められない。

7) まとめ

①過去数万年にわたり繰り返し噴火して

いる。

- ②歴史記録に残された火山災害である。
- ③表面上は静穏でも地下では火山らしい活動をしている。
- ④最後の噴火から約 350 年が経過している。

以上のことから将来の噴火への備えをしておく必要がある。

■交流会

総会及び特別講演会后、講師を囲んでの交流会を行いました。橋本副会長の挨拶・乾杯の後、懇談に移りましたが長時間の聴講の後、喉に潤すビールの味は格別でした。

【交流会風景 ～講師を囲んで～】



また、会員同士お互いの近況を語り合い和気あいあいのうちに終了の時間となり、今度副会長の音頭で中締め後、散会となった。

(文責 石川：今成康忠)